日本の旧石器文化と旧石器時代人の再考

Reconsideration of Paleolithic Culture and People in Japan

真家　和生[1]，鳴瀬　麻子[1]
[1]大妻女子大学博物館

Kazuo Maie[1] and Asako Naruse[1]
[1] Otsuma Women's University Museum
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：日本の旧石器文化，日本の旧石器時代人，日本の更新世人類
Key words：Paleolithic Culture in Japan, Paleolithic People in Japan, Pleistocene People in Japan

抄録

日本の旧石器時代は極めて特殊な特徴を有している．それは，旧石器が出土する遺跡からは人骨すなわち旧石器時代人が伴出されず，旧石器時代人が発見された遺跡からは石器が出土しない，ということである．これは旧石器使用者がどのような人々であり，現在の日本人につながる人々であるのかどうかという判定ができないということを意味しており，日本の旧石器時代研究の足枷となっている．本報告では，人類学および考古学の最新情報を整理し，現時点でのこれら情報の整理を行った．なお本報告は，平成24年度大妻女子大学人間生活文化研究所共同研究として「東国の旧石器時代文化の再考と復元」の題名で研究費をいただいて行った作業のまとめであり，オリジナル研究ではないことをお断りしておく．

１．日本の旧石器時代の特徴と本報告の目的

日本の旧石器時代は極めて特殊な特徴を有している．それは，旧石器が出土する遺跡からは人骨すなわち旧石器時代人が伴出されず，旧石器時代人が発見された遺跡からは石器が出土していない，ということである．これは旧石器使用者がどのような人々であり，現在の日本人につながる人々であるのかどうかという判定ができないということを意味しており，日本の旧石器時代研究の足枷となっている．

著者らは，平成 24 年度大妻女子大学人間生活文化研究所共同研究として「東国の旧石器時代文化の再考と復元」と題した課題名で研究費をいただいたので，岩宿遺跡の見学，明治大学博物館で開催された日本の旧石器展における情報収集なども含め，人類学および考古学の最新情報を整理し，現時点での日本の旧石器時代をどのように考えるべきかの情報整理を行った．本報告は，そのまとめである．従って，本報告はオリジナル研究ではなく情報整理にとどまることをお断りしておく．

２．日本の旧石器時代人

日本の旧石器時代人と考えられていた人骨は以下の通りである．

①：葛生（くずう）原人：栃木県葛生町，直良信夫（なおらのぶお）らにより発見．1950 年発見の上顎切歯と 1951 年左上腕骨は所在不明となっている 8 点の骨群．

②：牛川旧人：愛知県豊橋市牛川鉱山，1957 年発見の上腕骨と大腿骨．

③：明石原人：兵庫県明石市，1931 年に直良信夫により発見の寛骨．直良は旧人骨と想定．鑑定を依頼された松村瞭は判断を保留．原化石は空襲で焼失．写真と石膏模型から長谷部言人は原人のものと判断．*Nipponanthropus akashiensis* と命名した有名な幻の化石．

④：聖嶽（ひじりだけ）人：大分県本匠村聖嶽洞窟，1962 年に日本考古学協会の発掘調査により発掘された．前頭骨片・頭頂後頭骨片と，1983 年発見の距骨．また，1999 年にも多数の人骨が発見された．小片保は山頂洞人 101 号と類似している

と指摘した．

⑤：三ヶ日人：静岡県引佐郡三ケ日町只の木，石灰採石場で 1959～61 年に，東大人類学教室・地質学教室による合同調査により発見された頭骨片 5 点・右寛骨・右大腿骨骨体．アオモリゾウが伴出したため後期更新世人と想定された．

⑥：浜北人：静岡県浜北市根堅（ねかた）の石灰岩採石場，1960 より 1962 年の東大人類学教室と地質学教室の合同調査により，14,000 年前の地層から発掘された若い女性の頭骨片・鎖骨・上腕骨・尺骨・寛骨．縄文人と類似している．18,000 年前の地層から発掘された脛骨体破片は縄文人のように扁平ではない．

⑦：ピンザアブ洞穴人：沖縄県宮古島上野村豊原（とよばる）ピンザアブ洞穴（山羊洞），1979～83 年に大城逸郎（おおしろいつろう）と長谷川善和により発見された頭頂骨・後頭骨・尖頂骨・第 5 腰椎・第 1 中手骨・手指末節骨・下顎右乳犬歯・下顎左第 2 切歯・上顎左第 2 小臼歯．

⑧：下地原（しもちばる）人：沖縄県那覇市久米島具志川村の下地原洞穴，1983,1986 年に長谷川善和・大城逸郎・佐倉朔により発見された乳児部分骨格および下顎骨・右上腕骨・右大腿骨・その他複数骨．

⑨：山下町洞穴人：沖縄県那覇市山下町の山下町第 1 洞穴，1968 年に発見された 6 歳子供の大腿骨の上 2/3 部分と脛骨の上 2/3 部分．

⑩：上部港川：沖縄県具志頭村の港川採石場の石灰岩フィッシャーから大山盛保により 1967～69 年に発見された．1970 年以降の港川人骨群発見の契機となる発見となった人骨 9 点．右上腕骨（男）・右尺骨上 1/3（女？）・左腸骨下半（男）・右大腿骨上半（男）・右大腿骨下 1/3（男）・右脛骨下 1/3（男）・左脛骨中央（男）・右距骨（男）・左第 1 中足骨（男）．

⑪：港川人：沖縄県具志頭村の港川採石場の石灰岩フィッシャーから大山盛保により 1970 年以降発見された人骨．

⑫：白保竿根田原洞穴（しらほさおねたばるどうけつ）人：石垣島飛行場予定地から発見．現在発掘は中断されている．

しかし，これらの人骨は人類学分野の精緻な再考察の結果，次のような結果となった．

①：葛生原人：8 点の骨群は，ニホンザルの下顎骨，C14（Carbon14）による年代測定の結果により中世末と判定される成人男性右尺骨，同じく C14 による年代測定の結果により中世末と判定される成人男性右大腿骨，縄文時代人と推定される成人男性右第 5 中手骨，縄文中期以降と推定される壮年後期男性左大腿骨，クマの上腕骨，トラの大腿骨，不明動物骨，であり，旧石器時代人の可能性は否定された．

②：牛川旧人：上腕骨について，鈴木尚は旧人段階の女性上腕骨の一部と判断したが，旧人は左右に扁平であるのが牛川人は前後に扁平であること，また三角筋粗面が狭い点で旧人と似ているというが，そうであるならば三角筋発達が弱く骨体が細いはずだが，牛川人骨は長さに対して太い．従って人骨ではない，最も似ているのはインドゾウの子どもの腓骨として，馬場悠男・山口敏・佐倉朔は人骨ではないと判断．すなわち，旧石器時代人の可能性は否定された．

③：明石原人：馬場悠男による寛骨の精緻な研究の結果，寛骨は原人から新人にかけて腸骨翼が狭くなる，また腸骨翼の前縁がめくれ込む，という傾向があることが示され，明石原人（寛骨）の形質は新人段階のものであり，縄文以降と判定された．

④：山頂洞人 101 号（約 1 万 4 千年前の人骨）との類似形質は江戸時代人にも見られるものであり，C14 による年代測定の結果，江戸時代人と判定された．

⑤：三ヶ日人：精査の結果，これら複数人骨にはいずれも縄文人的特徴，特に柱状大腿骨という縄文人的特徴がみられることから縄文時代早期人と判定された．

⑥：浜北人：地層より 14,000 年前～18,000 年前と判定され，縄文的形質もあるが旧石器時代人（より正確には更新世人類あるいは洪積世人類）と判定された．すなわち新人ではあるが，本州で発見された唯一の旧石器時代人と言える．

⑦：ピンザアブ洞穴人：C14 より 26,000 年前の人骨と判定された．すなわち港川人（約 18,000 年前）よりも原始的，つまり港川人に先行する集団と判定された．新人であるが更新世人類である．

⑧：下地原人：C14 より 15,200 年前と判定された．乳児骨のため詳細不明ではあるが，また新人ではあるが更新世人類と判定された．

⑨：山下町洞穴人：C14 より 32,000 年前と判定された新人だが，年代の測定された日本人最古の

更新世人類．古代型新人と新人（*Homo sapiens*）の特徴がモザイク的に混在している．脛骨には栄養不良を示すハリス線が認められる．

⑩：12,000 年前と判定された，縄文中後晩期とやや類似した形質を持つ新人だが更新世人類である．港川人と異なる形質を持っている．

⑪：港川人：約 18,000 年前のほぼ全身骨格が残っている更新世人類．男女の全身骨格がほぼ完全な形で残っているため，洪積世人類研究の重要な資料となっているが，縄文時代人とはいくつかの点で形態が異なり，縄文時代人に移行した人類ではないと考えられている．港川人はより南方から北上してきた集団の北限と考えられている．この港川人は石器を伴って発見されてはおらず，旧石器を持っていたかどうか不明である．

⑫：白保竿根田原洞穴人：約 2 万年前相当の人骨化石であり，更に古い人骨（約 3 万年前相当）が出る可能性についても示唆されている．この更新世人類が石器を伴うかどうかが注目されているが，港川人と同様に，白保竿根田原洞穴人も縄文時代人に移行したとは言えない可能性が高く，現在の日本人の祖先である縄文時代人の出自は未だ解明されていない．また，縄文時代以前の本州の旧石器時代人（人骨は浜北人だけが発見されている状態であるか）が縄文時代人に移行していったのか，それともそうした先行集団に縄文時代人が交替していったのか，現時点では判断することができない．

３．まとめ

縄文時代以前の本州の旧石器時代人は，現在の時点で浜北人だけであり，浜北人がかなりの集団として生活していたのか，すなわち人口維持が可能な集団として生活していたのか，それともなんらかの事情で本州にやってきた少数派なのかは現時点で不明である．その鍵のひとつとなるのは石器であるが，浜北人は石器を伴出していない．浜北人は部分骨であり全身像を推定することはできない．浜北人が縄文時代人に移行していったのか，それとも浜北人が先行集団として縄文時代人が交替していったのか，浜北人はたまたま居ただけにすぎない少数派なのか，現時点では判断することができない．

また，沖縄県の 2～3 万年前の人骨，とくに石垣島の人骨に関しては，石器を伴出することに期待が寄せられているが，石垣島空港予定地からの出土であり諸々の事情により現在は発掘が中止されている．しかし，ほぼ 3 万年前と推定される人骨が出ており，国内最古の人骨と言えよう．しかし，沖縄から出土した人骨については，港川人のように九州以北の縄文時代人に移行していった可能性は低く，現在の日本人には繋がらない可能性が高いと推測される．

日本における旧石器時代人の問題は，やはり化石と人骨が同時発掘されることが鍵であり，九州以北の旧石器遺跡付近からの更新世人類の発見が待たれる状況となっている．

Abstract

The Characteristics of Japanese Paleolithic sites are as follows; there found no human fossil bones where Paleolithic stone tools were found, and there found no Paleolithic stone tools where Paleolithic human bones were found. We summarized the recent archeological and anthropological information about these situations.

（受付日：2013 年 4 月 17 日，受理日：2013 年 4 月 25 日）

真家　和生（まいえ　かずお）
現職：大妻女子大学博物館教授

東京大学理学部生物学科人類学課程卒業・同大学院博士課程中途退学・理学博士（京都大学）．
専門は人類学・人類働態学・博物館学．現在は博物館展示を行いながら，人類働態学の研究として「安全な自転車利用の促進」の研究を行っている．
主な著書：自然人類学入門（単著，技報堂出版）